

平成 18 年 2 月 26 日日曜日、松江市民冬季大会当日。

朝、雨音で目が覚める。カーテンを開けてみるとかなりな雨・・・パートナーの顔が浮かぶ。私のパートナー S さんは自称雨女。しかし雨の日の勝率はかなりいいらしい。ラッキーなのか、この雨は？この雨が吉と出るか凶と出るか、期待と不安を胸に会場へ向かう。

女子 B 級の集合時間は 9 時。S さんと 8 時 45 分に待ち合わせ、2 人揃って受付をする。名前の確認で受付終了。何ももらえず・・・「秋季大会では板チョコが 2 枚ももらえたぞ！今回参加賞は無いのか？」おばちゃんペアは文句を言う。

試合開始前、試合方法について説明を受ける。雨のため使えないコートが何面かあるらしい。今回は各級ブロックごとにコートに当てはめられていたが、共有でコートを使うブロックも出たとのこと。大会を円滑に進めるため、当初予選は 6 ゲームマッチであったが、6 ゲーム先取に変更になる。この時隣から「トスは任せた」との声が「ええっ、先取なのにトスを任せるって・・・」今日の運試しと気楽に考えることにする。その時、大会運営委員長より「参加賞は負けて帰られる時にこのクジを引いてもらってください」との一言が。その一言で「参加賞は何ナニ？」とトスのことは忘れてしまった・・・

いよいよ試合開始、あんなに降っていた雨がやんできた。

第一試合は某スクールに所属のペア。挨拶をするととても優しそうな、お母さんの様な方達で好印象を持つ。

トスを行う。毎回トスの時はアップしか言わない私のコールはいつも通りアップ。しかしラケットはダウンを示していた・・・相手のサーブで試合開始。まずは小柄なお母さんのサーブ。フォアサイドにいる私のリターン。いきなりアウト！最悪なスタート。どうも精神的なものであるだろうが、昨日からラケットを握った感じに違和感があった。ストロークが普通に打てる気がしない。どうしよう!?と不安でいっぱいになる。その後パートナーサイドでポイントを取るが、私がミスするという悪循環で 1 ゲーム目を落とす。2 ゲーム目は S さんのサーブ。昨日からサーブの調子が悪いと言っておられた言葉通り、ファーストサーブが入らない。セカンドは入れられるが今度は私がポーチに失敗。余計なことをしたとますます萎縮し、ボレーミスを連発。2 ゲーム目も落とす。その後はお互いに相手のサービスはブレイクしていくが、自分のサービスをキープできず、私達は常に相手にリードを許したまま 9 ゲーム終了。4 - 5 で次とられたら終わり。S さんのサーブに期待をかける。相手のメガネをかけたお母さんは積極的に前に詰められるが、ロブを上げるとミスをされる確立が高いので、そちらを狙っていくようにする。しかし相手のミス以前に私がボレーミスをしたり、パートナーを散々走らせ、それがミスにつながりゲーム終了。本当に S さんにはいくら謝っても許してもらえない内容だった。「やっぱ私がここにいるの場違い

だよな～」等とネガティブな事を考えているとSさんから「ちゃんと試合毎に上達してるよ。これからもお互いに刺激しあいながら頑張っていこうね」という涙が出る言葉をかけてもらう。Sさんの優しさに感動し、今できる限りのことをしようと心に誓い、次の試合に臨む。

次のペアはよく聞くクラブに所属の方達。白い衣装の方と黒い衣装の方でまるでオセロの様だと思う。

まずはトス。またまたはずし、相手にサーブ権が行ってしまう。相手からサーブ練習開始。二人ともものすごい回転だ！メチャメチャ重い!!先月出場した室内の大会で受けたランカーさんのサーブに匹敵するかも・・・ちょっとビビりながら自分達のサーブ練習。またリターンで帰ってくるボールの回転量がものすごい！それもすごく深く返ってくる!!かなりビビりながら試合開始。

相手からのサーブをドキドキして待つ。しかしいざ試合が始まってみると練習の時のようなサーブはたまにしか来ず、やはり試合と練習は違うのかと思う。あっさり1ゲーム目を取り、コートチェンジ。次は私のサーブ。あまりにも緩々な為か相手はタイミングが合わずミスを連発。今日はじめてのサービスキープ。とにかくうれしい

この後も相手のアウトやネットというミスが続き、3ゲーム終了。でもまだまだ油断はできない。練習の時のような状態になったら手も足も出ないかもしれない。タイミングをつかまれる前に早く終わらせたいと思う。

4ゲーム目、Sさんのサーブ。リターンの大半が右利きの人のバックサイドに返る。この人達はSさんがラケットを左手に持っていることに気づいていないのか？Sさんにとってそちらサイドはフォアなんだよ、と思いながらここもキープし5ゲーム目へ。

白い方のサーブ。黒い方は完全に戦意を失っている様子。結局5,6ゲームも連取し、1位トーナメントに望みをつなげて、お母さんペアとオセロペアの試合が終わるのを待つ。結果、お母さんペアがオセロペアを破り、私達は2位トーナメントに進出することになった。

2位トーナメントでは私達は一番上のブロックにいたため、1試合免除になる。

次に対戦する方達の試合を観に行く。どこかで見たことのある人が試合をしておられた。どこで見たんだろう？しばらく考えるが思い出せず。6-0という一方的なスコアで試合終了。どこかで見た人のペアが勝利。いよいよ2位トーナメントスタート。どこかで見た人が話しかけてくる。話しながらよくよく顔を見たら以前勤めていた職場の先輩だった・・・「あれ先輩、以前はA級に出ておられませんでした？」と聞くと久々の試合なのでBにしたとのこと。さっきの圧倒的強さに納得するが、なぜそんな人達が2位トーナメントにいるのか不思議に思う。いざ試合が始まってみると先輩ペアは非常に冷静。私達の動きを

ほんとはよく見て打ってこられる。それでも大半のゲームをデュースまで持ち込むことはできた。しかし決め手につけ、0 - 5。後が無い。6ゲーム目、私のサーブ。緩々のサーブにタイミングが合わないのか、相手はネット、アウトの連続。さっきのオセロペアとの試合を思い出す。何が何でも1ゲームとりたい!! Sさんと必死に頑張る。すると結果がついてきた。やった~ しかし喜んだのも束の間、あっさり7ゲーム目をとられ、私達の冬季大会は終了した。

今回の大会はA、B級しかなかったので待ち時間がほとんど無く、スムーズに試合が進行していたが、他の人の試合を見る時間はほとんど無かった。唯一じっくり観れたのが、お昼ご飯を食べながら観た、私達ペアの通うスクールのMコーチの試合だった。一つ一つのショットも素晴らしいが、何より憧れるのがフォームの綺麗さ。いつも「エースをねらえ」の宗方コーチがフォーム大切さを岡ひろみに説いているのを思い出す。あんなに綺麗なフォームで打たれるから素晴らしいショットができるのだろう。「止まって打つ」という課題をずっと抱えている私にとって少しずつでも近づきたい方である。

試合終了後時間を見るとまだ14時過ぎ。この時間になると空きコートがいくつか出てきた。主催者側から自由に使っていいと許可をもらったので、反省会を兼ねて同じ階級に出たもの同士で試合をすることになった。本戦は終わったが、いろいろな方と試合ができ夕方まで楽しい時間を過ごすことができた。

あっそうそう、忘れてはいけないのが参加賞。私達ペアはハズレでグリップテープをいただいた。どなたかこれを読まれた方で「自分は当たった!」という方があったら、当たりはなんだったのか教えてやってくださいな。おばちゃんペアは気になって気になって。よろしく願いしま~す。